
世界の中心は君で

佐智

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の中心は君で

【Nコード】

N7529T

【作者名】

佐智

【あらすじ】

鏡音リンとレンは仲がいい双子だった。だけど、完全に理解できるわけじゃなくて。精神的にちよつと大人なレンと自分に素直なリンの学パ口話。

(前書き)

鏡音で双子設定の学パ口です。

「レン、今日は教室まで迎えにきてよ」

朝、別れ際に言われた言葉だった。だから理由も聞けないままで長引いているSHRにいらいらしながら、双子の姉のことを思い出していた。勝ち気で少し我が儘で天然の入った可愛い人。身内のひいき目なしにリンは可愛いのだろう。事実、小さい頃は男の俺でさえ可愛いと言われていたのだから。

ようやく終わったSHRに俺はため息をつきながら、早足でリンの教室に向かった。クラスメイトの女の子が話しかけてきた気がするけど、それどころじゃなかった。

（機嫌損ねてるかな……）

いつものリンも最近は俺にとっていろいろ大変だけど、不機嫌なリンも扱づらい。

リンの教室にたどり着くと、俺が声をかける前にリンが俺に気づいた。

「レン！」

嬉しそうに駆け寄ってくるリンに俺は脱力した。どうやら杞憂だったみたいだ。

「遅くなってごめん。一応急いだんだけど」

「全然いいよ。荷物とってくるから待ってて！」

言った途端、駆け出すリンに俺は苦笑する。さっきまで話していただろう友達におざなりな挨拶をして、俺の元に戻ってきた。

「いこっ」

「止めるって！」

自然な流れで腕を絡めてくるリンを振り払う。こっちの心臓がもたない。

「だからレンはツンデレって言われるんだよー」

「うるさいなあ」

俺じゃなくて、気づかないリンが悪いんだ、と自分に言い訳をする。

さっきからどこかご機嫌なリンに疲れるなあと思いつつ、悪い気はしなかった。

「なんでそんなテンション高いわけ？ いいことでもあった？」

「うん。リンが来てくれた」

「……だってリンが来いって言っただろ？」

「そうだけど、女の子いなかったし」

「？」

「いつも私がリンのクラス行くと、女の子と楽しそうにしゃべってるんだもん」

ぶくつと頬を膨らませるリンに俺は驚いた。

多分、嫉妬してるって気づいてないんだろっけど。

俺はリンの頬をつつつきながら、ため息をついた。さっきとは違って、決して悪い意味のため息ではない。

「俺はクラスメイトとしゃべっちゃいけないの？」

「そういうわけじゃないけど……」

そういうわけなんだな。

リンの前でクラスの女子と話さないようにしなきゃな……、と面倒に思った。

でもまあ、しょうがない。それでリンが喜ぶなら。

「リンの一番は私でしょ？」

「！」

「私はリンが一番好きだよ。違うの？」

「……違うくないよ」

「なら、いいや」

また嬉しそうに笑って歩きだすリン。

「待ってよ」

昔と違って、自分より少し低い位置にいる姉を追いかける。

結局いつだって、俺はリンに振り回されているんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7529t/>

世界の中心は君で

2011年6月8日03時41分発行